



第190号

発行所
一般社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会
〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

主 な 内 容

- ② 新任あいさつ
レストランしらん委託先承認
- ③ 校友会・KMS・FUNDにより
- ④ 支部だより 京都 福井 静岡
- ⑤ 支部だより 奈良 高知 愛媛
- ⑥ 人事異動・会員計報

新年のごあいさつ

芝蘭会会長
医学研究科長・医学部長
上本 伸二



明けましておめでと
うございます。今年の5月
に日本医学教育認証評
価協議会(JACME)
による国際医学教育分
野別認証評価を受診の
予定ですので、今回は
京都大学医学部の教育
についてお話ししたい
と思います。

意味では他力本願であ
りますが、京都大学医学
部は東京大学医学部と並
んでわが国のトップ2の難
関校としての地位を維持
しております。これを可
能としているのは京都大
学医学部の国内外に誇れ
る100年の歴史であり、
わが国の医学・医療を牽
引してきてきた先人たちの多
大なる貢献、ならびに京
都大学医学部附属病院、
関連病院における現役芝
蘭会会員の活躍を受験生
が高く評価しているから
こそ、彼らが京都大学医
学部を目指すのです。ま
た、合格判定にはセンタ
ー試験成績の比率を低く
し、難問を考えさせ解答
を記述させる京都大学個
別入試成績を重視してお
り、単に知識が豊富なだ
けではなく、自分で考え
てありアベノミクスのキ
ワードであるトリクルダウ
ン効果は実際の経済社会
においては実証が困難な

机上の空論であることが
証明されようとしていま
すが、トリクルダウン効
果は京都大学医学部に
ける研究と臨床の発展に
対しては多大な実績を残
してきたことがすでに実
証されています。

以上が、これまでの京
都大学医学部発展を支
えた教育スタイルであり
今後も継承しなければ
ならない最重要事項で
す。近年の医学教育に
新に要求されているの
はグローバル化への対応

学共通教育(教養科目)
において英語による生
物学科目(外国人教員担当)
を必須とし、同様の英語
による科目を4回生まで
選択できる。②これまで
自由時間が多かった2回
生後期に専門基礎科目を
前倒しで配置し5回生か
らの臨床実習が余裕を持
って迎えられるカリキュ
ラムとする。③各年次の
進級要件を明確にし、問
題のある学生は早期に対
応する。④専門科目も単
位制とすることで国際的
に運用できるGPA評価
を可能とする。⑤教育
の受益者である医学生
の意見も定期的に取り上
げる。⑥臨床実習は平成
26年度から関連病院の協
力を得て診療参加型(クリ
ニカルクラークシップ)
を目指しているが、学生
へのマンツーマン指導を
さらに強化していく。⑦
教員の教育業績を客観
的に評価できるシステム
作りを取り組む。

多くの優秀な人材を輩
出してきた京都大学医学
部のこれまでの実績を維
持しつつ、外部からの要
求に対しても日々の研究
と臨床を行いながら余裕
をもって対応できる教育
システムを目指していま
す。そして、教育の目配
りを広げて、医学研究科
長・医学部長としてはド
ロップアウトする学生を
できるだけ減らしてい
きたいと希望しておりま
す。

学部教育見直し推進

グローバル化対応に前向き

ひと昔前まで、京都大
学医学部では教育をどう
行うかは積極的に議論さ
れることはありませんで
した。しかし教育を軽
視していたわけではなく、
優秀な後進の育成は国際
的にハイレベルな京都大
学医学部のステータスの維
持に重要なことであると
認識されてきました。そ
して、そのために必要不
可欠なことは、京都大学
医学部に優秀な人材を獲
得する大学受験とトップ
クラスの研究者・臨床医
をリクルートする医学部
の教授選考スタイルの2
点が重要であると理解し
ております。大学入試に
おいて全国的に優秀な学
生を確保することは、あ

引してきた先人たちの多
大なる貢献、ならびに京
都大学医学部附属病院、
関連病院における現役芝
蘭会会員の活躍を受験生
が高く評価しているから
こそ、彼らが京都大学医
学部を目指すのです。ま
た、合格判定にはセンタ
ー試験成績の比率を低く
し、難問を考えさせ解答
を記述させる京都大学個
別入試成績を重視してお
り、単に知識が豊富なだ
けではなく、自分で考え
てありアベノミクスのキ
ワードであるトリクルダウ
ン効果は実際の経済社会
においては実証が困難な

配置すれば優秀な中堅
研究者・臨床医が集ま
ってくる、さらにそれを目
指して才能のある若手研
究者・若手臨床医が集ま
ってくる、そして良質な
人材の中での切磋琢磨を
通して優秀な人材が育成
されるというポジティブ
な連鎖が繋がる、最近流
行りの言葉で言えばトリ
クルダウン効果(trickle
down effect)でありま
す。本来は経済学用語
でありアベノミクスのキ
ワードであるトリクルダウ
ン効果は実際の経済社会
においては実証が困難な

であります。経済におけ
るグローバル化はイギリス
のEUからの離脱、トラ
ンプ大統領の登場に代表
されるように斜陽期を迎
えておりますが、医学と
いう科学の世界における
グローバル化はどうでしょ
うか? インターネットが
高度に発達した現状にお
いて、真実のみが正義で
あるという価値観で貫か
れている科学の世界にお
いてはグローバル化とい
う世界規模での競争を阻
む要因は何もないと思
います。また、わが国の医
療システムに対してのグロ
ー

確化し、モニタリングして
漸次改善していく体制を
構築すること、いわゆる
PDCAサイクルが機能
するシステムの中で教育を
行うことに要約されると
思います。つまり、外部
からの経時的な客観的評
価に対応できる教育シス
テムです。京都大学医学
部では学務委員長、医学
教育推進センター長の多
大な尽力のもと、平成28
年度入学からの学生を対
象に予定も含めて以下の
ような学部教育の見直し
を進めています。①英語
教育を推進するために全

松田秀一教授をコーディネーターとして行われた4氏によるパネルディスカッション



開会あいさつを行う稲垣病院長(右)と岩井副研究科長



新専門医制度などで報告

京大関係病院長協議会定例総会

京都大学医学部附属病院で
は、平成28年9月23日(金)
に、平成28年度京大関係病
院長協議会定例総会を芝蘭会館
にて開催しました。本協議会
は、同会員である関係病院長
が親睦を深めるとともに、医学
の進歩発達及び病院経営の合
理化を企画することを目的と
して年1回、定例総会を開催
しているものであり、学内外か
ら150名余りの参加がありま
した。

定例総会では、稲垣暢也病
院長及び岩井二宏 医学研究科
副研究科長の開会あいさつ、稲
垣病院長より「京大病院の現
状」についての報告、妹尾浩
教授(消化器内科長)、南部
雅幸特定教授(先制医療・生
活習慣病研究センター)、湊谷
謙司教授(心臓血管外科長)、
佐賀恒夫特定教授(放射線診
断科)より新任者あいさつと
研究・診療科等の紹介、福原
俊一教授(京都大学医学部附
属病院 臨床研究教育・研修
部 部長/京都大学大学院医
学研究科 医療疫学分野)より
医療者のための臨床研究オン
ライン学習プログラム(CLP
Extension)についての報告、
小西靖彦 教授(医学研究科
附属医学教育推進センター長)
より臨床実習について報告が
行われました。さらに、新専門
医制度について、高橋良輔教授
(神経内科長)、松村謙臣准
教授(産科婦人科長)、大森孝
一教授(耳鼻咽喉科・頭頸部
外科長)からそれぞれ報告が
行われました。その後、松田秀
一教授(副病院長/整形外科
長)をコーディネーターとして、
稲垣病院長(日本専門医機構
理事)、高橋教授、松村准教授、
大森教授によるパネルディスカ
ッションが実施されました。

また、定例総会終了後に開
催された懇親会において、出席
いただいた関係病院の先生方と
本院の先生方による活発な情
報交換が行われ、大変有意義
なものとなりました。

京都大学医学部附属病院で
は、平成28年9月23日(金)
に、平成28年度京大関係病
院長協議会定例総会を芝蘭会館
にて開催しました。本協議会
は、同会員である関係病院長
が親睦を深めるとともに、医学
の進歩発達及び病院経営の合
理化を企画することを目的と
して年1回、定例総会を開催
しているものであり、学内外か
ら150名余りの参加がありま
した。

定例総会では、稲垣暢也病
院長及び岩井二宏 医学研究科
副研究科長の開会あいさつ、稲
垣病院長より「京大病院の現
状」についての報告、妹尾浩
教授(消化器内科長)、南部
雅幸特定教授(先制医療・生
活習慣病研究センター)、湊谷
謙司教授(心臓血管外科長)、
佐賀恒夫特定教授(放射線診
断科)より新任者あいさつと
研究・診療科等の紹介、福原
俊一教授(京都大学医学部附
属病院 臨床研究教育・研修
部 部長/京都大学大学院医
学研究科 医療疫学分野)より
医療者のための臨床研究オン
ライン学習プログラム(CLP
Extension)についての報告、
小西靖彦 教授(医学研究科
附属医学教育推進センター長)
より臨床実習について報告が
行われました。さらに、新専門
医制度について、高橋良輔教授
(神経内科長)、松村謙臣准
教授(産科婦人科長)、大森孝
一教授(耳鼻咽喉科・頭頸部
外科長)からそれぞれ報告が
行われました。その後、松田秀
一教授(副病院長/整形外科
長)をコーディネーターとして、
稲垣病院長(日本専門医機構
理事)、高橋教授、松村准教授、
大森教授によるパネルディスカ
ッションが実施されました。

また、定例総会終了後に開
催された懇親会において、出席
いただいた関係病院の先生方と
本院の先生方による活発な情
報交換が行われ、大変有意義
なものとなりました。

新任あいさつ

次世代の 緩和ケア従事者を育成



恒藤 暁

大学院医学研究科人間
健康科学系専攻教授

平成 28 年 8 月 1 日付で京
都大学大学院医学研究科人
間健康科学系専攻の教授を
拝命しましたので、芝蘭会
員の先生方にごあいさつ申
し上げます。

私は昭和 60 年に筑波大学医
学専門学群を卒業し、淀川キ
リスト教病院ホスピスで 14 年間
勤務しました。その後、大阪
大学大学院医学系研究科緩和
和医療学寄附講座で診療・教
育・研究に 8 年間携わり、平

成 26 年か
らは京都大
学附属病
院緩和医
療科長と
して緩和
ケアチー
ムの診療
に励んで
きました。

高校生の
時、数学
や物理が
好きでし
たので、
漠然と工
学部か理
学部に行
こうと思
っていました。

今後は京
都大学医
学部附属
病院にお
ける緩和
ケアの提
供体制を
拡充させ
ると共に
、次世代
の緩和ケ
ア従事者
の育成に
励みたい
と考えて
います。

そして緩
和ケアを
「広める」
だけでなく
、「深める」
ことと「高
める」こと
を目標し
て、教育
と研究に
励んでい
きたいと
願っています。
今後とも
ご指導ご
鞭撻のほど
宜しくお願
い申し上げます。

大学 4 年生の時に、わが国初
のホスピスを聖隷三方原病
院に創設した原義雄先生の
「ホスピス」という特別講義
を聞いて、初めてホスピスの
存在を知りました。

翌年の春休みの 1 週間、聖
隷三方原病院のホスピスを
見学しました。ホスピスで
は、愛に裏打ちされた、思い
やりと配慮のあるきめ細や
かなケアがなされているこ
とに感動しました。愛と奉仕
の精神がスタッフのケアに
息づいていたように感じら
れました。そこからは治らな
い人にもしっかりと関わる
姿勢と情熱が伝わってきま
した。

大学卒業後、がん患者の痛
みを治療するペインクリ
ニックで研鑽を積みまし
た。日本ペインクリニック学
会のシンポジウム終了後
に恩師となる柏木哲夫先
生にお会いし、お話を伺
った後に「ホスピスで一
緒に働きたい」と有り難
いお誘いをいただきました。
その当時、ある方は私の
ことを思っ「ホスピスの
ように、麻薬漬けするよ
うなところには行くな」と
止めました。また別の方
からは「終末期ケアは医
師の仕事ではない」「治
らない患者に医療費を使
うのは無駄遣いである」
とも言われました。当時
はホスピスに対する誤解
と偏見が強くあり、ホ
スピス医は奇人・変人扱
いもされていました。今
となっては隔世の感があ
ります。

「レストランしらん」

業務委託先を承認

理事会

平成 28 年 11 月 26 日
(土) に芝蘭会館別館に
於いて「レストラン
しらん」の業務委託先
について「の審議を行
うため芝蘭会理事會
が開催されました。

先企業数社について
説明が行われ、審議
の後、(株)マイス
ターホテルマネジ
メントが運営する
(株)クサツエス
トピアホテルに業
務委託することが承
認されました。
議案の審議終了後、
2

件の報告があり、1 件
目、事務局より芝蘭
会報編集委員会に
ついての報告、2 件
目は、上本会長より
次回理事会の評議員
会を平成 29 年 3 月
11 日(土)に開催す
ることの報告があり、
いづれも了承されまし
た。

レストラン 40 席



個室 12 席



「しらん」ぜひご利用を

この度、平成 29 年 4 月
から芝蘭会館別館内の
レストラン「しらん」の
営業を(株)マイスター
ホテルマネジメントが
運営するクサツエス
トピアホテルに

委託することになり
ました。同社は、財務
体質が健全な上、良質
な料理の提供を行うこ
とで定評がございます。

今後は、さらにより一
層、皆様のご期待に添
うよう努力して参りたい
と存じておりますので、
引き続きレストラン「
しらん」を倍旧のお引き
立てを賜り、同窓会等
にご利用賜りますよう
お待ち申し上げます。

芝蘭会館がご利用いただけます

古都の風情に彩られた空間で、みなさまのお集り、ご宿泊をサポートさせていただきます。
学会やシンポジウムへのご出席はじめ、同窓会などのお集まりや、
京都観光のご宿泊に、芝蘭会館別館[国際交流会館]をご利用ください。



会館ロビー



和室



ツインルーム



シングルルーム



一般社団法人 芝蘭会 (しらんかい)

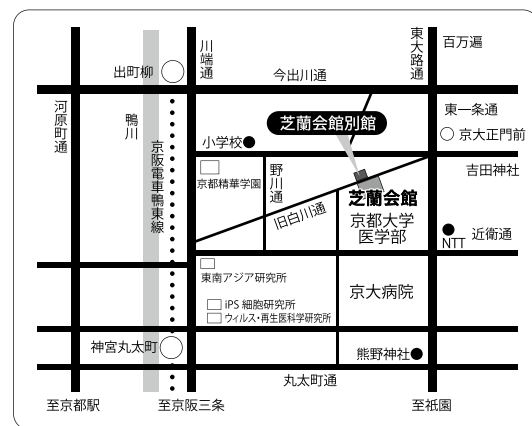
芝蘭会館別館

〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町 11-1

Tel. 075-771-0958 Fax. 075-752-4015

E-mail: info@shirankai.or.jp http://www.shirankai.or.jp

レストラン [しらん] Tel. 075-752-1027



芝蘭会館別館へのアクセス

- 京都駅から
 - D2 乗場 市バス 206 系統「東山通北大路バスターミナル」行
「京大正門前」下車徒歩 2 分
 - 地下鉄「国際会館」行「今出川」下車出口 3 番、
市バス 201 系統「百万遍・祇園」行乗換「京大正門前」下車徒歩 2 分
- 阪急河原町駅から
 - 出口 6 番 市バス 201 系統「百万遍・祇園」行、31 系「統熊野・岩倉」
行「京大正門前」下車徒歩 2 分
- 京阪出町柳駅から 徒歩 15 分

客室ご利用料金 (税込)

シングル (18 室) 定員 1 6,800 円

ツイン (3 室) 定員 2 12,700 円 (シングルユース 10,400 円)

- 宿泊室 (全室洋室) は、バス、トイレ、テレビ、冷蔵庫、インターネットジャッ
ク付きです。
- 芝蘭会館 (会費納付者) は宿泊利用料金を、1,000 円割引させていただきます。
- チェックインタイムは午後 3 時、チェックアウトタイムは午前 10 時となっ
ております。
- キャンセルについては、3 日より宿泊利用料金の半額を請求させていただきます。

研修室・会議室ご利用料金 (税込)

	ご利用時間	9:00~12:00	13:00~12:00	18:00~22:00	超過料金
研修室 1・2	定員 60 名	15,000 円	18,400 円	18,400 円	4,600 円
会議室 B1	定員 20 名	9,800 円	11,500 円	11,500 円	3,000 円
和室 1・2	定員 10 名	6,300 円	8,000 円	8,000 円	2,300 円

京都大学医学部
校友会・教育研究支援基金
(KMS・FUND) だより

事務局
〒606-8501
京都市左京区吉田近衛町
京都大学大学院医学研究科・
医学部 管理棟 1F 総務掛内
Tel.075-761-2467
Fax.075-752-1528
Mail-Address:
kyoto-kms-fund@office.
med.kyoto-u.ac.jp

大盛況、2ホール使う

第9回校友会総会・講演会



木原 正博

KMS・FUND委員長
社会疫学分野教授

ただいた校友会の皆さまに改めて御礼を申し上げたいと思います。その後、京都大学医学部校友会賞(別稿)が授与された後、講演会と特別講演会のセッションに移りました。

今年の講演会は、医学研究科の基礎部門と臨床部門それぞれの若手のホープにお願いすることとし、基礎医学では、機能微細形態学分野の斎藤通紀教授、臨床医学では、皮膚科学分野の梶島健治教授が登壇されました。

来ましたが、登山の趣味、山の診療所での診療奉仕活動、あの山中伸弥教授に「師匠」と呼ばれるほどのマラソンへの打ち込みなど、意外な側面をしばしば紹介していただいた後、本題では、最新の研究知見として、皮膚における免疫反応などの美しい3次元映像を次々と示しながら、皮膚科学の先端的展開を紹介していただきました。

興味深くお話しいただきました。この発見を「ベニシリンの発見」になぞらえられた言葉が大変印象的で、京都大学が世界のがん治療革命の拠点となっていることを実感できること発表でした。講演会・特別講演には、285名もの参加があり、稲盛ホールだけでは足りず、山内ホールでビデオ上映までしたいと思います。

この度は平成27年京都大学医学部若手研究者優秀論文賞KMYIAを受賞させて頂き、身に余る光栄と深く感謝しております。御指導いただきました木村剛先生、森本剛先生、塩見紘樹先生をはじめ共著者の先生方

発生頻度が増加し、その重症度は経時的に悪化する事が知られています。症候性重症AASの第1選択の治療法は、外科的大動脈弁置換術もしくは経皮的AAS留置術ですが、手術介入されない場合は胸痛、失神、心不全などの症状が出現し、数年以内に死亡するという

患者登録、解析に携わり、無症候性重症AASの患者背景とその長期予後について報告しました。現行ガイドラインでは無症候性重症AASは基本的には症状発現を待ってから弁置換手術を施行するという方針になっていますが、その治療方針は、無症候のうち介入する方針に比べて

今回の受賞を励みに、研究結果を患者さんに還元できるよう努力していきたいと思っております。末筆ではございますが、教育研究支援基金に御寄附いただいた方々に深く感謝いたします。

平成28年10月1日、医学部芝蘭会館稲盛ホール・山内ホールにて、第9回校友会総会・講演会が開催されました。総会では、土井校友会会長と上本医学研究科長・医学部長の挨拶の後、まず京都大学医学部若手研究者優秀論文賞(KMYIA)の授賞式が行われました。



特別講演を行う
本庶佑名誉教授

斎藤教授は、「培養下で精子と卵子を作る…生命継承機構の探求」と題して講演され、生殖細胞の研究に進んだ経緯(別稿)が授与された後、講演会と特別講演会のセッションに移りました。

今年の講演会は、医学研究科の基礎部門と臨床部門それぞれの若手のホープにお願いすることとし、基礎医学では、機能微細形態学分野の斎藤通紀教授、臨床医学では、皮膚科学分野の梶島健治教授が登壇されました。

来ましたが、登山の趣味、山の診療所での診療奉仕活動、あの山中伸弥教授に「師匠」と呼ばれるほどのマラソンへの打ち込みなど、意外な側面をしばしば紹介していただいた後、本題では、最新の研究知見として、皮膚における免疫反応などの美しい3次元映像を次々と示しながら、皮膚科学の先端的展開を紹介していただきました。

興味深くお話しいただきました。この発見を「ベニシリンの発見」になぞらえられた言葉が大変印象的で、京都大学が世界のがん治療革命の拠点となっていることを実感できること発表でした。講演会・特別講演には、285名もの参加があり、稲盛ホールだけでは足りず、山内ホールでビデオ上映までしたいと思います。

この度は平成27年京都大学医学部若手研究者優秀論文賞KMYIAを受賞させて頂き、身に余る光栄と深く感謝しております。御指導いただきました木村剛先生、森本剛先生、塩見紘樹先生をはじめ共著者の先生方

発生頻度が増加し、その重症度は経時的に悪化する事が知られています。症候性重症AASの第1選択の治療法は、外科的大動脈弁置換術もしくは経皮的AAS留置術ですが、手術介入されない場合は胸痛、失神、心不全などの症状が出現し、数年以内に死亡するという

患者登録、解析に携わり、無症候性重症AASの患者背景とその長期予後について報告しました。現行ガイドラインでは無症候性重症AASは基本的には症状発現を待ってから弁置換手術を施行するという方針になっていますが、その治療方針は、無症候のうち介入する方針に比べて

今回の受賞を励みに、研究結果を患者さんに還元できるよう努力していきたいと思っております。末筆ではございますが、教育研究支援基金に御寄附いただいた方々に深く感謝いたします。

平成28年10月1日、医学部芝蘭会館稲盛ホール・山内ホールにて、第9回校友会総会・講演会が開催されました。総会では、土井校友会会長と上本医学研究科長・医学部長の挨拶の後、まず京都大学医学部若手研究者優秀論文賞(KMYIA)の授賞式が行われました。



大盛況のホール

斎藤教授は、「培養下で精子と卵子を作る…生命継承機構の探求」と題して講演され、生殖細胞の研究に進んだ経緯(別稿)が授与された後、講演会と特別講演会のセッションに移りました。

今年の講演会は、医学研究科の基礎部門と臨床部門それぞれの若手のホープにお願いすることとし、基礎医学では、機能微細形態学分野の斎藤通紀教授、臨床医学では、皮膚科学分野の梶島健治教授が登壇されました。

来ましたが、登山の趣味、山の診療所での診療奉仕活動、あの山中伸弥教授に「師匠」と呼ばれるほどのマラソンへの打ち込みなど、意外な側面をしばしば紹介していただいた後、本題では、最新の研究知見として、皮膚における免疫反応などの美しい3次元映像を次々と示しながら、皮膚科学の先端的展開を紹介していただきました。

興味深くお話しいただきました。この発見を「ベニシリンの発見」になぞらえられた言葉が大変印象的で、京都大学が世界のがん治療革命の拠点となっていることを実感できること発表でした。講演会・特別講演には、285名もの参加があり、稲盛ホールだけでは足りず、山内ホールでビデオ上映までしたいと思います。

この度は平成27年京都大学医学部若手研究者優秀論文賞KMYIAを受賞させて頂き、身に余る光栄と深く感謝しております。御指導いただきました木村剛先生、森本剛先生、塩見紘樹先生をはじめ共著者の先生方

発生頻度が増加し、その重症度は経時的に悪化する事が知られています。症候性重症AASの第1選択の治療法は、外科的大動脈弁置換術もしくは経皮的AAS留置術ですが、手術介入されない場合は胸痛、失神、心不全などの症状が出現し、数年以内に死亡するという

患者登録、解析に携わり、無症候性重症AASの患者背景とその長期予後について報告しました。現行ガイドラインでは無症候性重症AASは基本的には症状発現を待ってから弁置換手術を施行するという方針になっていますが、その治療方針は、無症候のうち介入する方針に比べて

今回の受賞を励みに、研究結果を患者さんに還元できるよう努力していきたいと思っております。末筆ではございますが、教育研究支援基金に御寄附いただいた方々に深く感謝いたします。

平成27年京都大学医学部若手研究者優秀論文賞 KMYIA 受賞者

【基礎研究部門】

氏 名	現 所 属	論文投稿時の身分	論 文 題 目	掲 載 誌
高折 光司	大津赤十字病院 腎臓内科 医長	研究生 (腎臓内科学分野)	Severity and frequency of proximal tubule injury determines renal prognosis	Journal of the American Society of Nephrology

【臨床研究部門】

谷口 智彦	博士課程(医学専攻) (循環器内科学分野) 4回生	博士課程(医学専攻) (循環器内科学分野) 3回生	Initial Surgical Versus Conservative Strategies in Patients With Asymptomatic Severe Aortic Stenosis	Journal of the American College of Cardiology
三宅 正裕	日本医療研究開発機構 臨床研究・治験基盤事業部 臨床研究課	博士課程(医学専攻) (眼科学分野) 4回生	Identification of myopia-associate WNT7B polymorphisms provides insights into the mechanism underlying the development of myopia	Nature Communications

(50音順)

混声合唱、硬式庭球、水泳
3団体に校友会賞



第5回京都大学医学部校友会賞の表彰式

平成28年10月1日に開催された第9回京都大学医学部校友会総会において、第5回京都大学医学部校友会賞の表彰式を行いました。

「京都大学医学部校友会賞」は、高い目標を持ち、意欲的に取り組む京都大学医学部公認団体を支援することを目的とし

ております。競技大会、コンテスト、その他様々な発表の場で顕著な実績を挙げた団体や、順位の現れないような活動であっても社会的な評価・影響力などを持つ団体の中から選考しております。

医学部公認団体の登録数により、文化系1団体、体育系2団体に賞状及び

混声合唱団メデイカルコール部は、創部以来、京都大学医学部附属病院での七夕コンサート、クリスマスキャンドルサードビスや他の施設への慰問コンサート等の社会的活動を続けています。

硬式庭球部は、西日本医科学学生総合体育大会において、男子ダブルスで強豪山口大学に勝利、女子ダブルスでも鳥取大学に勝利するという成績を収めました。また年2回OB戦を実施していま

水泳部は、近畿医科学生水泳選手権大会において、男子総合優勝、男女総合2位という優れた成績を収めました。西日本医科学学生総合体育大会においては、リレー種目すべてで京都大学医学部水泳部のベストタイムを更新しました。



数多くのお世話になった関係者の方々に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

受賞対象となりました論文の内容は、無症候性重症大動脈弁狭窄症(aortic stenosis: AS)の手術適応に関するものです。ASは心臓弁膜症で、加齢に伴って

転帰をたどります。一方で、無症候性重症ASの治療方針については未だ controversialであり、現代の高齢化した患者層を対象とした大規模な研究報告は皆無でした。この度、全国27施設の重症ASを連続登録したCURRENT AS Registryの立ち上げ、

べて総死亡、大動脈弁関連死亡、心不全入院といったアウトカムが有意に悪く、AS関連症状がなくても手術リスクが低い場合は弁置換術が勧められると報告しました。現在、無症候性重症ASに早期介入すべきかを検討するランダム化比較試験が現在米国で計画中とのことで、多少なりともガイドラインに影響を与えられたものと思っています。

若手研究者優秀論文賞KMYIA受賞者の言葉

博士課程 医学専攻
「循環器内科学分野」
(論文発表時)

谷口 智彦

この度は平成27年京都大学医学部若手研究者優秀論文賞KMYIAを受賞させて頂き、身に余る光栄と深く感謝しております。御指導いただきました木村剛先生、森本剛先生、塩見紘樹先生をはじめ共著者の先生方

研究結果還元したい

発生頻度が増加し、その重症度は経時的に悪化する事が知られています。症候性重症AASの第1選択の治療法は、外科的大動脈弁置換術もしくは経皮的AAS留置術ですが、手術介入されない場合は胸痛、失神、心不全などの症状が出現し、数年以内に死亡するという

今回の受賞を励みに、研究結果を患者さんに還元できるよう努力していきたいと思っております。末筆ではございますが、教育研究支援基金に御寄附いただいた方々に深く感謝いたします。

東洋史の権威、杉山教授が講演

【京都】

平成28年7月3日(日)、芝蘭会館稲盛ホールにて平成28年度芝蘭会京都支部総会が開催されました。

総会は副支部長の野口雅滋先生の司会のもと、京都支部支部長である真鍋克次郎先生のあいさつで始まり、庶務報告、会務報告、会計報告、新役員就任報告、芝蘭会本部報告、議事と順次進められました。庶務報告では、物故会員報告、黙祷が行われました。会務報告では平成27年度支部総会と、平成27年度新春懇親会、京都支部全理事会について報告がなされました。また、議事では平成27年度会計報告と監査報告がなされました。

その後、京都大学大学院文学研究科歴史文化学専攻東洋史学講座教授を務める杉山正明先生より、「東夷の見た京都」と題された特別講演が行われました。杉山先生は東洋史の権威で、多くの著書を出版されています。特にモンゴルについての著書が多いそうです。また、名誉ある賞も数々受賞されており、1995年にはサントリー学芸賞の思想・歴史部門、2003年には司馬遼太郎賞、2006年に紫綬褒章、2007年には日本学士院賞を受賞されています。現在は京都大学の教授として働いていらっしやいますが、定年退職後は来てほしいと色々な大学などから招待されていらっしやるそうです。講演では、杉山先生が私物として所有しておられたり、京都大学が所蔵している普段は見ることがないような歴史的資料を持つて来てくださったりしました。実際に先生方や私たち雑誌部員にも触れることができたので、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。会

は終始和気あいあいとした雰囲気であり、宴もたけなわとなり会は惜しまれながらも西祥太郎先生のごあいさつで締めくくられ、解散となりました。最後になりましたがこのような素晴らしい会に

お招きいただいたことに感謝の意を持って、芝蘭会京都支部総会・懇親会の報告を終わらせていただきます。

(文責・2回生 谷本将崇)

呼吸器外科の最前線で講演



伊達洋至教授の講演が行われた静岡支部総会

【静岡】

平成28年9月10日(土)、グレンディエールブレイクにて、芝蘭会静岡支部総会が行われました。総会は幹事である島田市民病院の服部隆一先生の開会の儀より行われ、静岡市市立静岡病院の望月敏弘先生の司会により進められました。物故会員の黙祷、総会・事業報告、会計報告と続き、次に京都大学呼吸器外科学教授の伊達洋至教授の講演が行われました。

講演終了後は会場を芝蘭会館の山内ホールに移し、副支部長の野口雅滋先生の司会のもと懇親会が行われました。懇親会では乾杯で始まり、懇親会中は先生方の自己紹介や近況報告が行われ、多くの先生方が我々雑誌

ての説明が行われました。現在脳死肺移植待機の患者は300人にもものぼり、ドナー肺の数が足りていない状況です。その為、多少肺が汚れてもそのまま使ったりすることもあったり、レシピアント肺の上部を残して下部だけを移植する自己肺温存手術が行われているそうです。また、手術の方法として左右反転移植というものも紹介されました。これはドナーの右肺をレシピアントの左肺に移植するというものです。その際に肺や心臓、血管等の3D模型を作って正確な位置関係を再現し手術計画を立てていきます。2014年に伊達先生の左右反転移植と自己肺温存手術を用いた生体肺移植を世界で初めて成功させられました。長期生存率もよくスタンダードな方法と変わらないそうです。

総会が終わって、会場を移して静岡県立こども病院の北條先生が乾杯の音頭をとられ、懇親会が行われました。会では終始、和やかな雰囲気になりました。非常に多くの方が参加されていたので、会中にも賑やかでした。会の最後には多くの先生がわれわれ雑誌部員にも

話しかけてくださり、静岡の病院について、名産品について等のお話もしてくださりました。会

の途中では各病院の代表の方が近況報告を行いました。そして、宴もたけなわとなり、会は惜しまれながらも解散となりました。

最後になりましたが、このような貴重なお話をたくさん伺える会にお招きくださったことに感謝の意をもって、静岡支部総会の報告を終わらせていただきます。

(文責・4回生 井上大志)

支部会員の2氏が研究発表



新入会員の紹介も行われた福岡支部総会

【福岡】

平成28年8月6日(土)、ユアーズホテルフクイにて、平成28年度芝蘭会福岡支部総会が開催されました。

まず、福岡支部の支部長でいらっしやる野口正人先生よりあいさつがあり、そのまま野口先生の司会のもと、物故会員黙祷、

新入会員紹介を経て、議事が行われました。主に事業報告、決算報告、監査報告、来年度事業計画、予算案が協議され、可決されました。その後高木先生に司会が移り、支部会員の研究発表が2題ありました。

1題目は福岡大学高工ネルギー医学研究センター

が再発し、抗がん剤治療も骨髄移植も効果がなく亡くなった患者さんの具体例を挙げられ、ゲフィチニブやオプジーボなどのよく効く抗がん剤を効果的に使用すること、また現在パラバである白血病研究グループを全国で統一し、運営組織をはっきりとさせることが必要であると強くおっしゃっていました。また、現在京都大学人間健康科学科のカリキュラムが大幅に改革されていることについても少し説明され、これからは受験システムから大幅に変更があり、看護コースなどの専門職育成コースを充実させることになるそうです。今回の総会では様々な演題、講演が行われ、少し学生

の私たちには難しい話もありましたが、いくらか知

っている知識も出てきてとても楽しく聞くことが出来ました。

講演終了後は会場をとなりの部屋に移し、そのまま懇親会が行われました。懇親会の途中では関連病院である福岡赤十字

病院、杉田玄白記念公立小浜病院の報告などもはさみつつ、様々な分野の先生方が和気あいあいと談笑され、終始楽しげな様子でした。たくさんの方の先生方が学生である私たちにも話しかけてくださり、現在の大学の様子やカリキュラム、学生の様子などに興味を持たれていました。最後にはなりましたが、この会を通して貴重な話をたくさん聞くことができました。このような会にお招きくださったことへの感謝の意をもって福岡支部の報告とさせていただきます。

(文責・3回生 吉平智博)

分子プロローブ開発応用領域分子プロローブ設計学部門教授でいらっしやる清野泰先生の、「18F-FDGを用いた粒子線治療効果予測に関する基礎的検討」でした。現在の放射線治療では、粒子線ががん細胞付近にダメージを与えた後、その治療効果を18F-FDGの蓄積からグルコース代謝をPETで見ることで経過を判断しています。しかしこの方法はがん細胞の周りの炎症細胞にも蓄積がみられることから、あまり正確ではないそうです。そこで18F-FDGの代わりに18F-FLTを用いると、E-valueでがん細胞の細胞数減少が観察される前に18F-FLTの蓄積が観察され、さらにこれはがん細胞のみに蓄積がみられ、PETでより正確に効果を見られるようになります。という内容でした。

続いて2題目の演題は、福岡赤十字病院脳神経

キャリア形成、興味深く



上本伸二教授の講演があった奈良支部総会

まだまだ安いほうであり、特に高年齢層では他業界に比べても安いことを説明しておられました。後半は若い外科医のキャリアについてで、卒後の研修医教育の重要性についてお話されていた。先生がおっしゃるには2年間の初期研修医制度によって地域医療は崩壊に近づいており、現在京大外科交流センターでは若手の医師に関し、特に研修医の教育リクルートについて分析をしているというご紹介がありました。具体的には若手が地方病院に行きたがらないという問題が

現在顕著であり、その対処法として都会病院と地方病院の2種類にグループ分けし、都会病院のみの選択はできないようにする、などの案が出ています。特に若い医師のキャリア形成は自分の近い将来の話であり、非常に勉強になる、興味深いお話でした。

講演終了後はそのまま懇親会が行われました。懇親会では、様々な分野、年齢層の先生方が、現在の話や在学時代の昔話で盛り上がりつつあり、終始にぎやかでした。同じテーブルで一緒にいた先生方もわざわざ私

ち学生にいろいろな話しかけて下さったり、また各先生方がテーブルを越えて少し自己紹介する時間なども設けられていた。非常に良い雰囲気になりました。シネMRIと

もとの診断をすることも可能です。富樫先生はさらに、Radiogenomicsという画像による形態・機能の情報と遺伝子発現との相関関係を解析する分野に触れられ、形態診断に機能診断を追加することで画像の婦人科診療への貢献が大きくなりつつあり、画像から得られる定量値がバイオマーカーとして治療効果・予後の予測に貢献するであろうことが今後ますます期待されると述べられて、今回の講演を締めくくられました。

その後、懇親会が終わり、先生方同士はもうろく、異常な蠕動の所見を

んのこと、雑誌部員である私にも多くの先生がお話をしてくださり、今と昔の医学部の共通点や異なる点などについて語り合い、非常に楽しい時間を過ごさせていただきました。そうして穏やかな雰囲気のまま進行していた会も終わりを迎え、参加者全員での写真撮影ののちに惜しまれながら解散となりました。

後半は國枝先生が今までされてきた研究のお話でした。電極を埋め込むことによって「ローカリティ」を刺激するとウェルニツケ野で反応が起こることを観察し、線維で繋がっていることを同定する研究などをされていたそう、論文で2014年の賞を受賞されました。

【奈良】

平成28年8月20日(土)、奈良ホテルにて、平成28年度芝蘭会奈良支部総会が開催されました。

まず、奈良支部の支部長でいらつしやる松村忠史先生よりあいさつがあり、引き続き協議事項に移りました。主に会計報告と次回総会の日程についての協議が行われ、その他の連絡事項があり、そして特別講演が行われました。講演は京都大学医学部研究科長・学部長で京都大学医学部附属病院肝胆・移植外科教授の上本伸二先生による、「外科医のキャリア形成」についてのお話でした。

本題である外科医の話に入る前に、まず先生から京都大学医学部の現状についての説明、紹介がありました。特に研究者育成のためのMD PhDコース、新しく

できた京大附属病院の先端医療・生活習慣病研究センター、医学部構内の学生会館、京都大学医学部記念講堂・歴史資料館などの紹介がありました。そして本題である外科医の現状とキャリア形成のお話へと進みました。日本の医師数は世界の先進国と比べても少ないと言われており、人口千人あたりの医師数はOECD諸国34ヶ国中29位であるそうです。過去に比べて医師の絶対数は増えてはいますが、外科と産婦人科はほぼ変わっておらず、がん患者が特に消化器に多いことを考えるとこれからの外科不足は危機状況である

と先生はおっしゃっていました。また、医師(特に外科医)の労働時間にも言及され、労働時間はかなり多く、以前に比べると給料は増えたとは言えど単位時間当たりでは

まだまだ安いほうであり、特に高年齢層では他業界に比べても安いことを説明しておられました。後半は若い外科医のキャリアについてで、卒後の研修医教育の重要性についてお話されていた。先生がおっしゃるには2年間の初期研修医制度によって地域医療は崩壊に近づいており、現在京大外科交流センターでは若手の医師に関し、特に研修医の教育リクルートについて分析をしているというご紹介がありました。具体的には若手が地方病院に行きたがらないという問題が

現在顕著であり、その対処法として都会病院と地方病院の2種類にグループ分けし、都会病院のみの選択はできないようにする、などの案が出ています。特に若い医師のキャリア形成は自分の近い将来の話であり、非常に勉強になる、興味深いお話でした。

講演終了後はそのまま懇親会が行われました。懇親会では、様々な分野、年齢層の先生方が、現在の話や在学時代の昔話で盛り上がりつつあり、終始にぎやかでした。同じテーブルで一緒にいた先生方もわざわざ私

ち学生にいろいろな話しかけて下さったり、また各先生方がテーブルを越えて少し自己紹介する時間なども設けられていた。非常に良い雰囲気になりました。シネMRIと

もとの診断をすることも可能です。富樫先生はさらに、Radiogenomicsという画像による形態・機能の情報と遺伝子発現との相関関係を解析する分野に触れられ、形態診断に機能診断を追加することで画像の婦人科診療への貢献が大きくなりつつあり、画像から得られる定量値がバイオマーカーとして治療効果・予後の予測に貢献するであろうことが今後ますます期待されると述べられて、今回の講演を締めくくられました。

子宮の機能評価で学術講演



富樫かおり教授の講演があった高知支部総会

【高知】

平成28年8月31日(水)、高知県の城西館にて、平成28年度芝蘭会高知支部総会が開催されました。

はじめに、内田先生の進行のもとに昨年度事業報告と会計報告が行われました。その後、「医学研究科・医学部の現況」

と題して、研究科・学部、附属病院等の運営体制、設備、研究プロジェクト等の報告が行われました。その中で「アンプロフェッショナルな学生をどうするか」について、これは本質的な問題であり対策を考慮する必要があると触れられました。

それらの報告ののち、画像診断学・核医学分野教授である富樫かおり先生より、「MR画像による子宮の機能評価」と題された学術講演が行われました。子宮は月経周期ごとに形態が大きく異なり、筋腫や体瘤・頸瘤のMR画像は非常に多彩です。そのため、通常のT2強調画像のみで病変の大きさ・位置・形態を評価するのは困難です。そこで富樫先生は拡散強調画像DWIとみかけの拡散係数ADCについて説明をされました。DWIは水分子のブラウン運動を可視化し拡散能の低い組織を高信号で示したもので、肉腫は細胞の膨張により水分子の拡散能が低下するためDWIにおいては白く映ります。T2強調画像よりも明瞭に病変が見え、さらにADCによる定量評価と組み合わせること、従来のMRIよりも正確に子宮における

病変とその予後を評価することができるとおっしゃいました。その後、シネMRIによる子宮機能の評価について述べられました。シネMRIとは一枚あたり数百ミリ秒で高速撮影することにより連続した画像を観察することのできる撮影法です。これにより、子宮収縮による偽病変の識別、月経困難症における痛みの評価、経口避妊薬による月経痛軽減効果の可視化が非侵襲的に可能になります。また、子宮の機能との関連が深い子宮蠕動を観察することができ、異常な蠕動の所見を

もとの診断をすることも可能です。富樫先生はさらに、Radiogenomicsという画像による形態・機能の情報と遺伝子発現との相関関係を解析する分野に触れられ、形態診断に機能診断を追加することで画像の婦人科診療への貢献が大きくなりつつあり、画像から得られる定量値がバイオマーカーとして治療効果・予後の予測に貢献するであろうことが今後ますます期待されると述べられて、今回の講演を締めくくられました。

その後、懇親会が終わり、先生方同士はもうろく、異常な蠕動の所見を

んのこと、雑誌部員である私にも多くの先生がお話をしてくださり、今と昔の医学部の共通点や異なる点などについて語り合い、非常に楽しい時間を過ごさせていただきました。そうして穏やかな雰囲気のまま進行していた会も終わりを迎え、参加者全員での写真撮影ののちに惜しまれながら解散となりました。

後半は國枝先生が今までされてきた研究のお話でした。電極を埋め込むことによって「ローカリティ」を刺激するとウェルニツケ野で反応が起こることを観察し、線維で繋がっていることを同定する研究などをされていたそう、論文で2014年の賞を受賞されました。

脳の研究、國枝教授が説明

【愛媛】

平成28年9月17日、伊予鉄会館にて京都大学医学部芝蘭会愛媛支部総会が開催されました。

まず支部長である門田和紀先生(昭和46年卒)による支部長報告がありました。

支部長は京都にいらつしやうとした時の報告をなさって、積貞棟や南病棟が新たに建設されたこと、旧解剖学講堂が改修されたこと、またそこに増設された医学部

資料館にお立ち寄りになったことなどを報告されました。その後校友会主催で卒業祝賀会と入学祝賀会が行われたこと、芝蘭会の運営状況、愛媛支部会員の動向の報告をなさって支部長報告は終了しました。

その後、愛媛大学大学院医学系研究科脳神経外科学教授の國枝武治先生(平成5年卒)より、「機能外科とネットワーク」という演題で特別講演会が開催されました。以下、この講演の簡潔な要約です。

前半は國枝先生が自身の経歴を紹介なさいました。先生は、大阪赤十字病院で研修時代を過ごされて2年半主に救急を担当なさったそう、で、医者としての基礎をそこで学ばれました。その後、大学院の高次脳機能センターで電気生理学的研究やMRI、PETを使つての研究、言語機能についての研究をされました。その後クリーブランドに留学され、てんかんの研究や患者やネズミの脳波を記録する研究を

最近、芝蘭会の方々へ芝蘭会または京大医学部事務職員の名前をかたって、個人情報(住所、電話番号等)を聞き出すとする不審な問い合わせの電話があるということを会員の方からご連絡をいただいております。芝蘭会とは全く関係がございませんので、くれぐれもご注意くださいようお願いいたします。

なお、芝蘭会では会員の方から住所変更等のご連絡がない限り、事務局からはお問い合わせはいたしておりません。ご不審なことがありましたら、芝蘭会事務局までご連絡ください。

芝蘭会 事務局 TEL : 075-751-2713 FAX : 075-752-4015

【ご注意】

人 事 異 動

発令年月日	氏 名		異動内容
H28.8.31	中村 仁洋	辞任	脳機能総合研究センター脳機能イメージング准教授より
H28.8.31	松田 和郎	辞任	健康長寿社会の総合医療開発ユニット特定講師より 獨協医科大学医学部准教授へ
H28.9.30	神波 大己	辞任	泌尿器科准教授より熊本大学教授へ
H28.9.30	桑原宏一郎	辞任	循環器内科講師より信州大学教授へ
H28.9.30	朝霧 成挙	辞任	次世代免疫制御を目指す 創薬医学融合拠点（AK）特定准教授より 名古屋市立大学准教授へ
H28.9.30	近藤 誉之	辞任	地域ネットワーク医療部准教授より 関西医科大学総合医療センター教授、診療部長へ
H28.10.1	CHAO, Chen Hwai	採用	医学研究科特定助教より 医学教育推進センター特定講師へ
H28.10.1	芦田 昇	採用	附属病院特定講師より 次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点（AK）特定講師へ
H28.10.1	大石 直也	採用	健康長寿社会の総合医療開発ユニット研究員より 同特定講師へ
H28.10.1	今井 哲司	昇任	薬剤部助教より同講師へ
H28.10.31	河村伊久雄	辞任	微生物感染症学准教授よりツバサ薬局へ
H28.10.31	福井 巖	辞任	神経生物学准教授より

発令年月日	氏 名		異動内容
H28.10.31	南方 謙二	辞任	心臓血管外科学講師より Temple University Lewis Katz School of Medicine Associate Professor of Surgery へ
H28.10.31	寺井 健太	辞任	病態生物医学特定准教授より大学院生命科学研究科准教授へ
H28.11.1	竹内 正人	昇任	薬剤疫学特定講師より同特定准教授へ
H28.11.30	高倉 俊二	辞任	臨床病態検査学准教授より厚生労働省職員へ
H28.12.1	高橋 由光	昇任	健康情報学講師より同准教授へ
H28.12.1	川崎 洋平	採用	静岡県立大学薬学部講師より薬剤疫学特定講師へ
H28.12.1	井上 貴博	昇任	泌尿器科講師より同准教授へ
H28.12.16	溝脇 尚志	昇任	放射線腫瘍学・画像応用治療学准教授より同教授へ
H28.12.31	西 英一郎	辞任	循環器内科学講師より滋賀医科大学教授へ
H29.1.1	平井 豊博	昇任	呼吸器内科学准教授より同教授へ
H29.1.1	児玉 裕三	昇任	消化器内科学助教より同講師へ
H29.1.1	近藤 祥司	昇任	糖尿病・内分泌・栄養内科助教より 地域ネットワーク医療部准教授へ

会 員 訃 報 （敬称略） 謹んでご冥福をお祈りいたします。

東田 敏夫 昭和12年卒	平成25年1月9日	ご逝去	片岡 善一 昭和25年卒	平成26年9月	ご逝去	内田 璞 昭和35年卒	平成28年9月23日	ご逝去
梶川 進 昭和17年卒	平成28年3月	ご逝去	曾根 正名 昭和25年卒	平成28年6月	ご逝去	井貫 平 昭和36年卒	平成28年1月20日	ご逝去
水田 厚正 昭和18年専卒	平成23年6月20日	ご逝去	森川 進 昭和25年卒	平成27年11月	ご逝去	橋本 一作 昭和38年院卒	平成28年2月24日	ご逝去
池崎 英文 昭和19年卒	平成27年11月27日	ご逝去	井上 勲 昭和25年薬卒	平成26年12月9日	ご逝去	朴 春浩 昭和42年卒	平成24年5月	ご逝去
坂上 英 昭和21年卒	平成26年5月22日	ご逝去	鮑 安仁 昭和26年卒	平成28年3月21日	ご逝去	藤原 元和 昭和45年卒		ご逝去
佐々木晃一 昭和21年薬卒	平成26年5月8日	ご逝去	林田 政義 昭和26年専卒	平成28年7月26日	ご逝去	堀内 徹郎 昭和45年卒	平成28年3月	ご逝去
荒木 良平 昭和22年卒	平成28年9月3日	ご逝去	大井 尚文 昭和26年薬卒	平成28年11月29日	ご逝去	種部 直之 昭和53年卒		ご逝去
弓場 雅美 昭和22年卒	平成28年2月29日	ご逝去	藤井 達三 昭和26年薬卒	平成28年6月8日	ご逝去	野尻 知里 昭和53年卒		ご逝去
前田 量三 昭和22年薬卒	平成28年3月1日	ご逝去	高折 修二 昭和27年卒	平成28年11月7日	ご逝去	三根 康毅 昭和57年卒	平成28年6月29日	ご逝去
内田 勝次 昭和23年卒	平成24年9月14日	ご逝去	篠原 教子 昭和27年専卒	平成28年1月11日	ご逝去	山口 慎也 平成4年院卒	平成26年	ご逝去
錦見 高弘 昭和23年卒	平成28年9月30日	ご逝去	古川 望 昭和27年専卒		ご逝去	岡本 洋子 平成14年卒	平成27年9月3日	ご逝去
西村 昭光 昭和23年専卒	平成28年11月17日	ご逝去	岡本 吉成 昭和28年卒	平成28年8月25日	ご逝去	松下 薫一 教室会員 解剖2	平成26年6月	ご逝去
古山 幸男 昭和23年専卒	平成24年4月12日	ご逝去	杉谷 章 昭和28年卒	平成29年1月8日	ご逝去	上坂 伸宏 教室会員 生理1	平成22年2月26日	ご逝去
稲葉 梢幸 昭和23年薬卒	平成27年1月15日	ご逝去	猪木 令三 昭和29年卒	平成28年9月18日	ご逝去	今村 信子 教室会員 医化学		ご逝去
伊藤 忠 昭和24年卒	平成28年5月14日	ご逝去	橋本 隆治 昭和29年卒		ご逝去	箱木 一也 教室会員 病理学	平成22年11月3日	ご逝去
土屋 凉一 昭和24年卒	平成28年12月23日	ご逝去	山本 孝昭 昭和30年卒	平成28年6月28日	ご逝去	松岡 薫 教室会員 内科3	平成28年6月28日	ご逝去
角田 沖介 昭和24年卒	平成28年7月8日	ご逝去	宇野 昌人 昭和31年卒	平成26年7月10日	ご逝去	木原満智子 教室会員 眼科	平成28年8月	ご逝去
戸田圓二郎 昭和24年卒		ご逝去	太田 富雄 昭和31年卒	平成28年11月27日	ご逝去	中堀 秀雄 教室会員 産婦人科	平成27年5月12日	ご逝去
三浦 寛一 昭和24年卒	平成28年2月1日	ご逝去	江藤 琢磨 昭和32年卒	平成28年11月3日	ご逝去	原田 喜男 教室会員 産婦人科	平成28年10月1日	ご逝去
山本 剛夫 昭和24年卒	平成28年11月21日	ご逝去	大橋 健迪 昭和32年卒		ご逝去	佐野 武司 教室会員 小児科	平成28年9月16日	ご逝去
金林 信雄 昭和24年専卒	平成26年7月16日	ご逝去	藏本 淳 昭和32年卒	平成28年10月25日	ご逝去	寺村 和 教室会員 小児科	平成28年7月7日	ご逝去
中橋 嘉明 昭和24年専卒	平成28年10月15日	ご逝去	鈴木 敏 昭和32年卒		ご逝去	山本 進 教室会員 小児科	平成28年8月28日	ご逝去
伊藤 徳三 昭和24年薬卒	平成28年8月10日	ご逝去	筒井 功 昭和32年卒	平成28年11月7日	ご逝去	月出 勉 教室会員 整形外科	平成21年11月22日	ご逝去
前川 義裕 昭和24年薬卒	平成28年6月12日	ご逝去	吉野 和男 昭和34年卒	平成17年4月27日	ご逝去	寺井 庸祐 教室会員 口外	平成27年11月24日	ご逝去
岡田弘三郎 昭和25年卒	平成28年5月15日	ご逝去	石川 稔晃 昭和35年卒	平成28年8月20日	ご逝去			
小鹿原健二 昭和25年卒	平成24年11月19日	ご逝去	稲本 康彦 昭和35年卒	平成28年5月	ご逝去			

芝蘭会会員名簿 訂正とおわび

平成28年11月に刊行いたしました芝蘭会会員名簿（平成28年度版、72回）に誤りがありました。会員ならびに関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。謹んでお詫びするとともに、下記のように訂正いたします。

一般社団法人 芝蘭会
株式会社 廣済堂

- 313頁 平成23年卒業 井上 稔
現住所【誤】553-0002 大阪市福島区鷺洲4-6-15 サムティ福島PORTA304
現住所【正】606-8117 京都市左京区一乗寺里ノ前町33-2 エスポワール一乗寺202
- 567頁 滋賀支部（彦根市立病院内）
【誤】濱田 哲平 平19
【正】濱田 哲 平19

訂正とおわび

芝蘭会報第189号（前号）8頁の会員訃報の内容に誤りがありました。会員ならびに関係者の皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしました。謹んでおわびするとともに、次のとおり訂正いたします。

- 【誤】「松島 正弘 平成元年 平成18年12月7日 ご逝去」
【正】「中村 隆之 平成元年 平成18年12月7日 ご逝去」

原 稿 募 集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場です。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介（自薦・他薦）及び医学・医療等に関するご意見等を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会で決めさせていただきます。
芝蘭会報 編集委員会

●事務局から●

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取り扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。（FAX 075-752-4015）

管理 総務 事務 芝蘭会
課長 課長 局長 会
長 山田 均
秋山 和 美
濱崎 康 博

彦、西村健太（1回生）
本将崇（2回生）西垣利
加古敦也、松本一希、谷
生（吉平智博（3回生）
史、蔡 嗣錡（以上4回
志、菅原聡真、朴 剛
生）梅本大地、井上大
太、中田 愛（以上5回
生）高屋龍生、西川裕
晶、阪原宏規（以上6回
輔、坂本 慧、宮崎規
未宝、大植啓史、小杉大
部 員 森山太陽、赤埴
顧問 高折晃史
芝蘭会雑誌部
誠、松村由美、阿部 恵
征良、山田圭介、園部
委員 斎藤信雄、岩田
委員長 高折晃史
芝蘭会報編集委員会